

トヨタ 2000GT

# TOYOTA 2000GT

見る者を魅了する流麗なフォルム。  
日本車史上、もっとも美しいスタイル。

4



今なお語り継がれる伝説のグランドツーリングカーを再現！

1:10 SCALE

全長 417mm

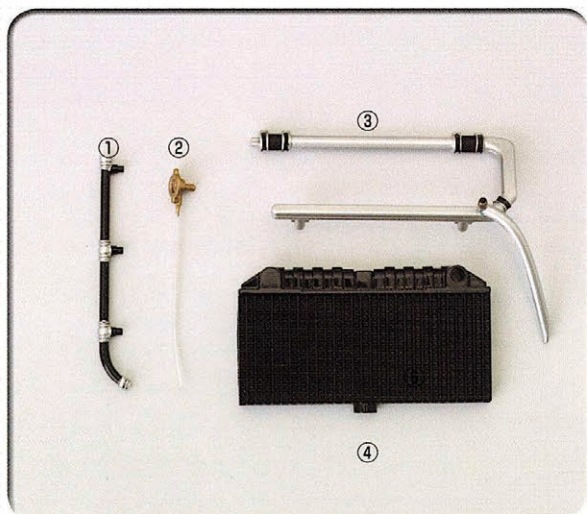
 DeAGOSTINI



14号

# ヒーターホースおよび フューエルホースを エンジンに取り付ける

今号では、エンジンの冷却系を担う「ヒーターホース」「ラジエーター」の組み立て作業を行う。それに伴い、既に取り付けてある一部のパーツを取り外すことになるので、慎重に作業を進めよう。完全な取り付け作業自体は、ほかの関連パーツが提供された後になるの、それまではユニット状態でパーツを組み立て、しっかりと保管しておこう。



- ①フューエルホース×1
- ②ラジエーターキャップ  
&ホース×1
- ③ヒーターホース×1
- ④ラジエーター×1

※②ラジエーターキャップ&ホースの取付けピン部分は非常に細く、折れやすくなっているので注意して扱って下さい。

使用する道具

・ピンセット  
(2号で提供したもの)

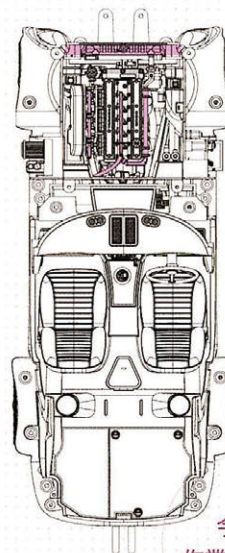
用意するもの

・エンジンブロック  
(13号で組み立てたもの)

あると便利なもの

・プラスドライバー、もしくは細い  
棒状のもの

※今号ではパーツの取り付けがしやすいように1～16のステップに分けて案内していますが、ステップ5、6、8、9のみで作業を終了することもできます。

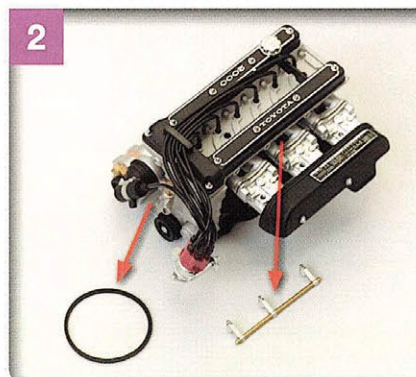


今号で  
作業する箇所

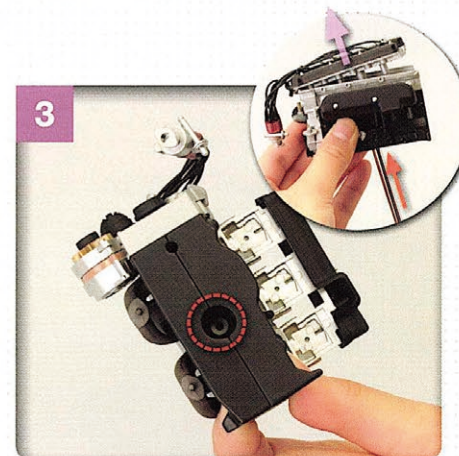


3カ所ある接合部のうち、  
どこで取り外しても問題はない

13号で組み立てたエンジンブロックを用意し、ディストリビューターを真上に引き抜いておく。ディストリビューターは、3個のパーツで構成されているが、どの接合部で外しても問題はない。このとき、プラグコードが抜けないように注意しよう。

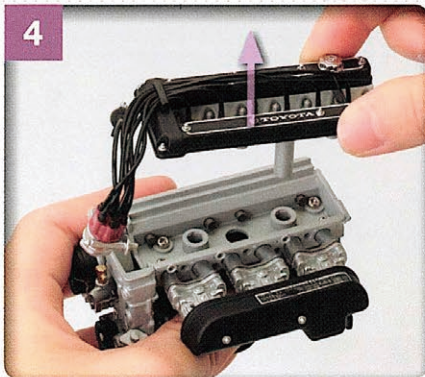


次に10号で取り付けた「アクセルレーターリンクシャフト」、11号で取り付けた「Vベルト」を取り外す。これらは次号以降の工程の最後で再度取り付ける。

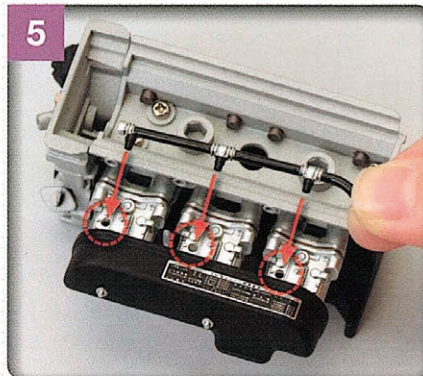


エンジンブロックの底面中央には丸い穴があり、その奥に穴の開いたポスト(=円柱状の支柱)がある。プラスドライバー、もしくは細い棒状のものを穴に差し込み、このポストを押し上げる。

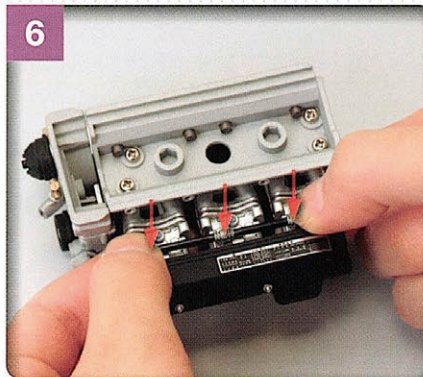




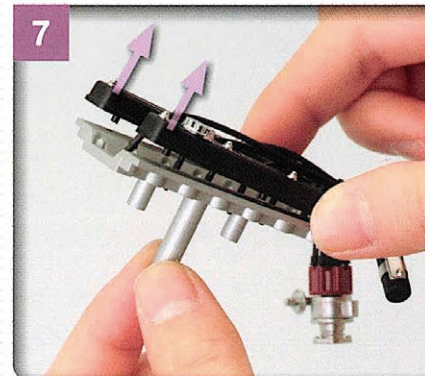
プラグコードとディストリビューター、ヘッドカバーを取り付けた状態のまま、シリンダーヘッド(上)をシリンダーブロックから取り外す。



①燃料ホースを用意し、写真の向きでキャブレター上面にセットする。



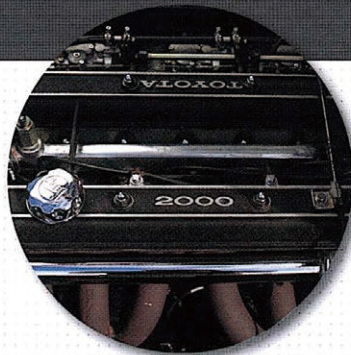
燃料ホースに設けられた3本の取り付けピンをキャブレター上面の取り付け穴に差し込み、真っすぐに押し込む。



④で取り外したシリンダーヘッド(上)を用意し、写真を参照しながらヘッドカバーの“後ろ側”を5mmほど慎重に引き上げる。このとき、「6番のプラグコード」以外は抜かないよう注意しよう。6番のコードは、後の作業で差し込み直す。

## Parts in focus

今号で取り付ける「ヒーターホース」は、エンジンのシリンダーブロック内部に冷却水を循環させるためのパイプラインだ。先端はラジエーターに接続され、ウォーターポンプによってクーラント(=冷却水)を循環させて冷却する、いわば水冷エンジンの“血管”になるパーツだ。

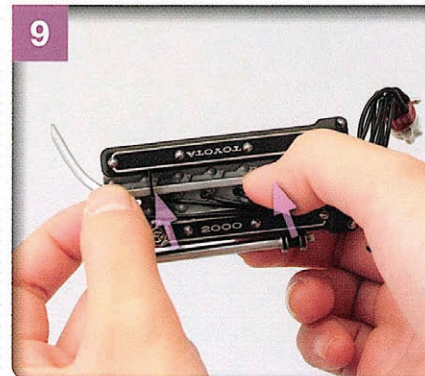


すき間に差し込む

③ヒーターホースを用意し、写真のように斜めに傾けた状態で先端をヘッドカバーとシリンダーヘッド(上)との間に差し入れる。



取り付けピンの位置を穴に合わせる。



差し入れた側のヒーターホース下面には2本の取り付けピンが、シリンダーヘッド(上)には2カ所の取り付け穴が設けられているので、ピンを穴に合わせて差し込み、真っすぐに押し込む。

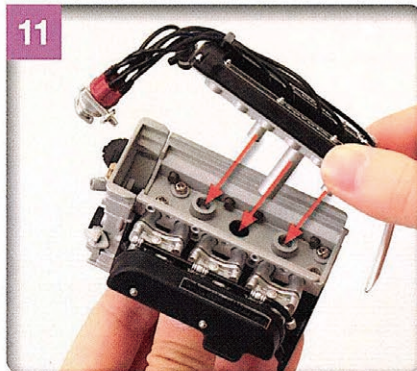


10



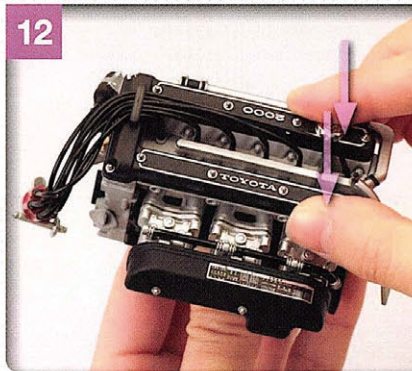
外しておいたヘッドカバー後端部を挟むように持ち、シリンダーヘッド(上)に再度はめ込む。

11



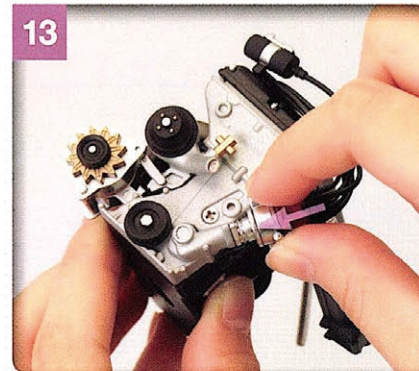
⑥で組み立てたシリンダーブロックを用意し、シリンダーヘッド(上)を差し込む。向きを間違えないように注意しよう。

12



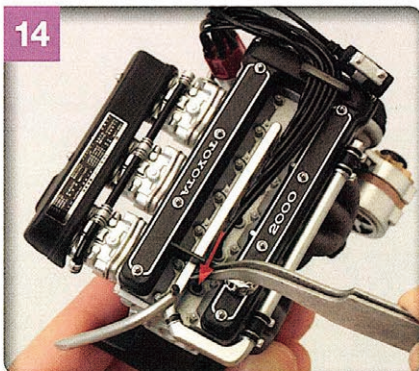
ヘッドカバーを上から押し込み、シリンダーヘッド(上)をシリンダーブロックに取り付ける。なお、ヘッドカバーの“シルバーで塗装されている部分”は、強く擦ると塗料が剥げやすいので注意しよう。

13



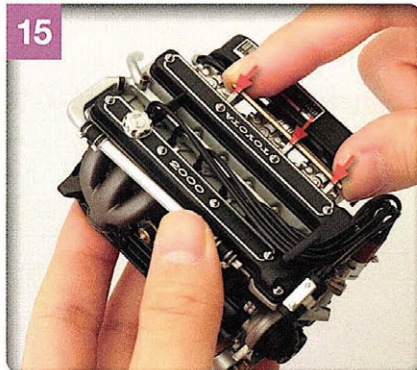
①で取り外したディストリビューターを差し込み、元の状態に戻す。

14



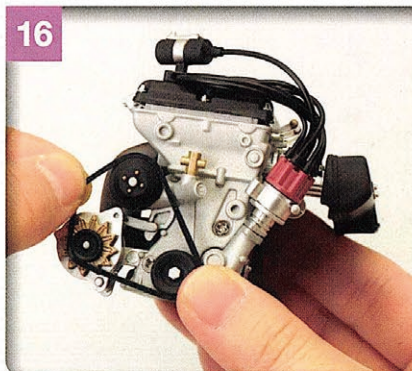
ピンセットを使い、抜けた6番のプラグコードを差し込み直す。

15



②で取り外しておいたアクセラレーターリンクシャフトを取り付ける。

16



②で取り外したVベルトを再度取り付けておく。

17



この部分にホースが配置される

②ラジエーターキャップ&ホースと④ラジエーターを用意し、取り付け部の形状を確認する。ラジエーター側の上面を見ると、片側にだけ斜めの段差が設けられており、この段差にラジエーターホースが収まるようにセットする。

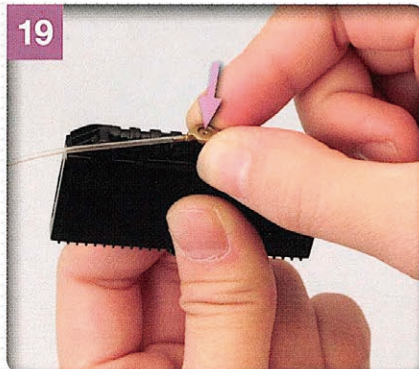


18



ラジエーターキャップ&ホースとラジエーターを写真のように持ち、キャップ側の取り付けピンをラジエーター側の穴に差し込む。取り付けピンと、ホースを接続しているピンは非常に細く、折れやすいので注意しよう。

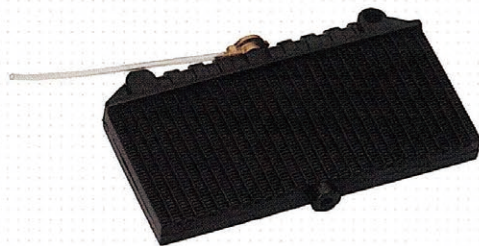
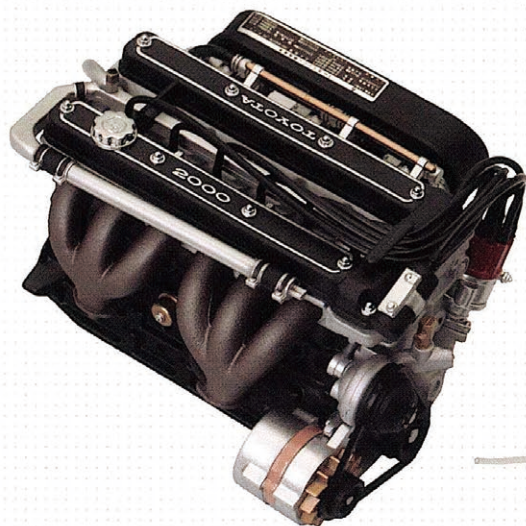
19



ラジエーターキャップ&ホースを真っすぐ押し込んで、ラジエーターに取り付ける。

### 今号の完成

これで今号の作業は完了だ。ラジエーターの取り付けは、エンジンルームとなるエンジンコンパートメントが提供されてからの作業になるので、それまで大切に保管しておこう。



## タイヤの手入れについて

2号でタイヤの洗浄を紹介しているが、パーツの保管状況や気候の変化によって、タイヤ表面が白っぽくなることもある。その場合は市販のケミカル剤などを使って、タイヤ本来の黒さを回復させることが可能だ。



### 【白化してしまった場合の対処】

- ①ホイールからタイヤを外し、よくもむ。
- ②表面の白っぽく見える粉を歯ブラシなどで落とす。
- ③KURE「CRC 5-56(無香性)」を全体に吹き付け、乾いた布でふき取る。
- ④ホビーグリス(模型専門店で入手可能)やシリコンオイルスプレーなど、市販の“鉱物油系オイル”を塗布し、布で軽くふき取る。



### 【白化していない場合の対処】

ホビーグリス(模型専門店で入手可能)やシリコンオイルスプレーなど、市販の“鉱物油系オイル”を塗布し、布で軽くふき取る。



### POINT

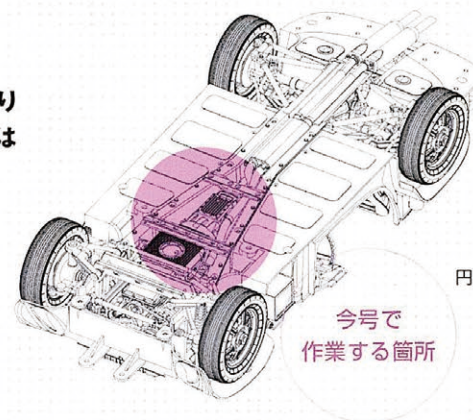
実車用のタイヤワックスや、模型用のワックスも市販されているが、タイヤの白化を防ぐには、定期的なアフターケアを行うことが一番確実だ。月に一度はモデルをクリーニングし、美しさを維持できるよう心掛けよう。



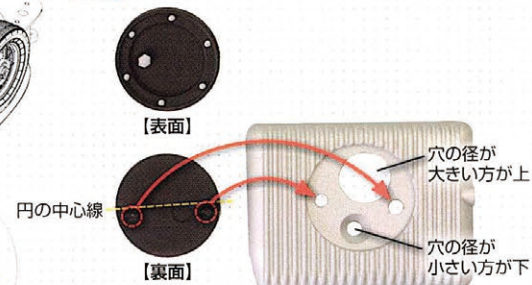
15号

# オイルパンを仮組みする

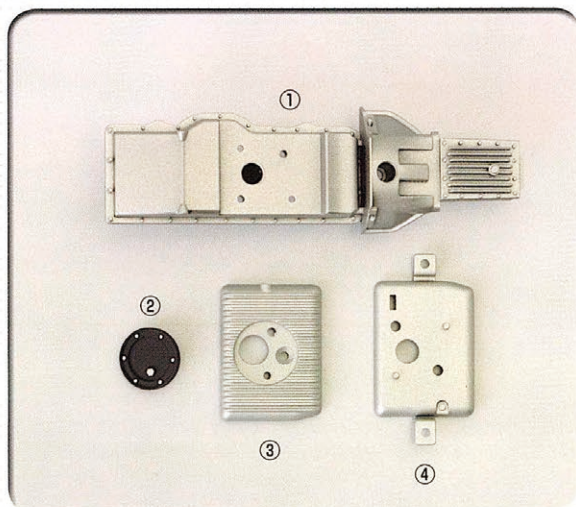
今号では、エンジン下部に備わる「オイルパン」の仮組みを行う。ビスを使っでの取り付け作業は、シャシーフレームなどほかのパーツがそろってからになるので、今回は“はめ込みによる仮組み作業”によって、組み立ての手順を予習しておこう。



1



## 今号のパーツ



- ①オイルパンA
- ②オイルパンカバー
- ③オイルパンC
- ④オイルパンB

### 使用する道具

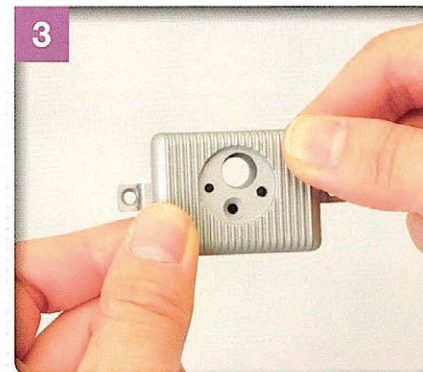
・特になし

### 用意するもの

- ・エンジンブロック (14号で組み立てたもの)
- ・マスキングテープ

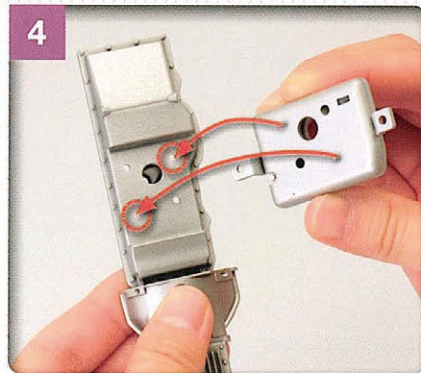


オイルパンCと④オイルパンBを用意し、写真のように持つ。それぞれ下側の角が“斜め”になっているので、その部分が噛み合うようにする。

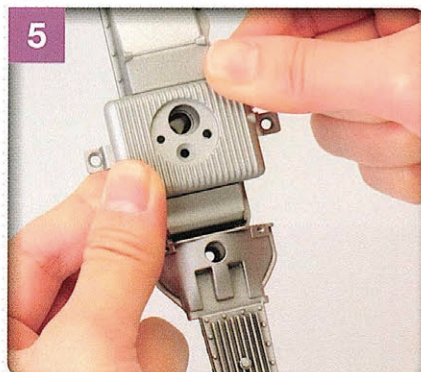


オイルパンCとBを重ね合わせてはめ込む。オイルパンCの縁部分に設けられた段差部分が、オイルパンBの内側にはまるようになっている。

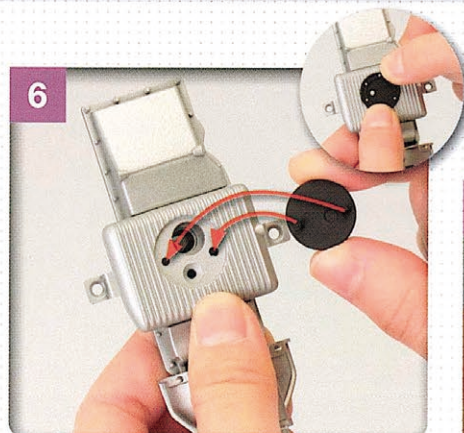




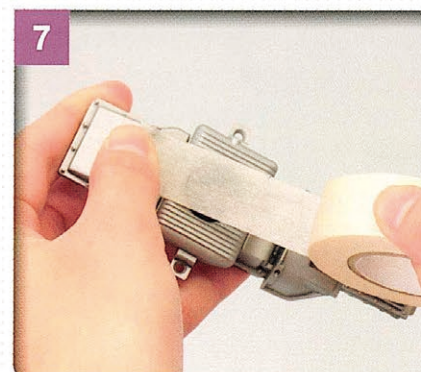
①オイルパンAを用意し、③ではめ込んだオイルパンBCを写真のようにセットする。オイルパンBCに設けられた大きめの穴が、オイルパンAの穴に重なる向きに合わせること。



オイルパンBCを真っすぐに押し込み、オイルパンAにはめ込む。



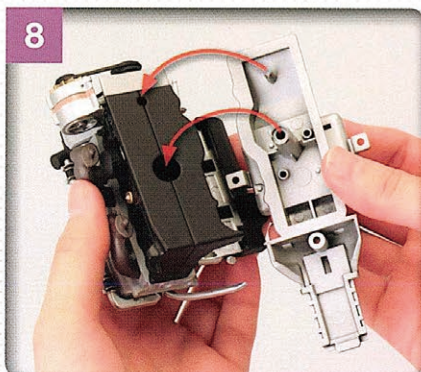
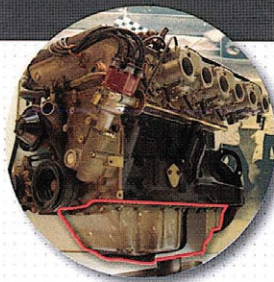
オイルパンカバーを用意し、①で確認した向きでオイルパンCにセットする。オイルパンカバーを真っすぐに押し込み、オイルパンCに取り付ける。



マスキングテープを用意し、取り付けしたオイルパンBC、オイルパンカバーが落ちないように、写真のように仮留めする。

## Parts in focus

2000GTのオイルパンには、放熱特性に優れたアルミ製が採用されている。鋳鉄製のエンジンブロックよりも放熱性に優れ、しかも放熱フィンやオイルクーラーまで備わるのだから驚きだ。本モデルでは組み立てやすさに留意し、パーツを3つに分割。シャシーフレームへの搭載を容易にし、なおかつ高いスケール感を醸し出している。



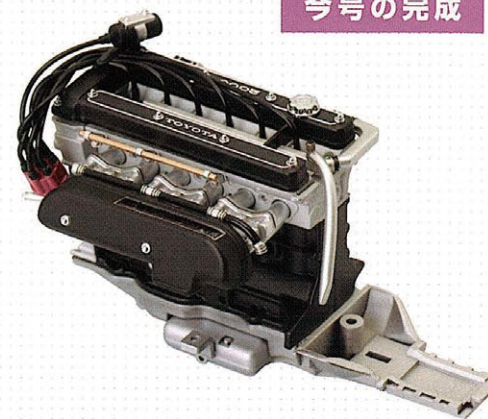
14号で組み立てたエンジンブロックを用意し、その底面に⑦で仮留めしたオイルパンをセットする。オイルパンAの中央部から突き出しているポスト(円柱状の部分)をエンジンブロック底面中央の穴に差し込む。



すき間が空かないように注意すること

オイルパンAをエンジンブロック底面に密着するまで押し込む。このとき、シリンダーヘッド(上)から突き出しているポストと、オイルパンAのポストは互いに噛み合うようになっていく。もしもシリンダーヘッド(上)が浮き上がったしまった場合は、それぞれのポストが噛み合っていないので、位置を調整しながら差し込む。

## 今号の完成



これで今号の作業は完了だ。ビスによる固定作業時には、今回仮組みしたパーツを分解することになるが、手順さえ覚えておけば簡単に組み立て直すことができるはずだ。なお、今回の組み立て作業は“仮組み”なので、組み立てたパーツが外れてしまわないよう、注意して保管しよう。

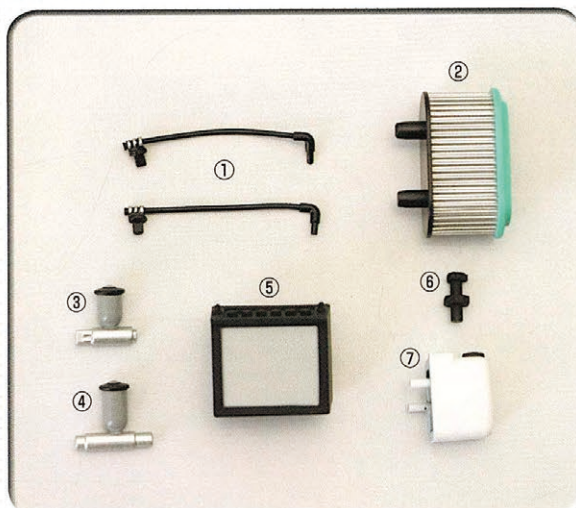


16号

# エンジン周辺パーツを準備する

今号では、エンジンの周囲に取り付けられる補器類を提供する。これらのパーツは後の作業で取り付けることになるが、一部は現時点で組み立てておく必要がある。中には非常に小さなパーツもあるので、取り扱いには十分注意し、パーツの損傷などが起こらないよう注意しよう。

## 今号のパーツ



- ①バッテリーケーブル端子×2
- ②エアクリナー×1
- ③ブレーキマスターシリンダー×1
- ④クラッチマスターシリンダー×1
- ⑤バッテリー×1
- ⑥ウォッシャータンクホース×1
- ⑦ウォッシャータンク×1

※②③④は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

### 使用する道具

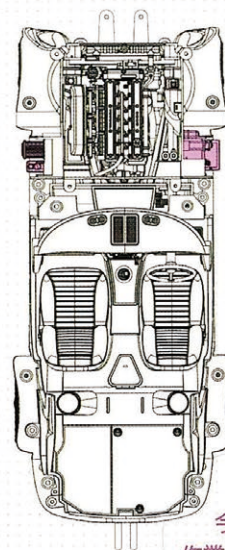
・特になし

### 用意するもの

・油性ペン  
 ・ビニール袋  
 (パーツが入っていた袋で可)

### あると便利な道具

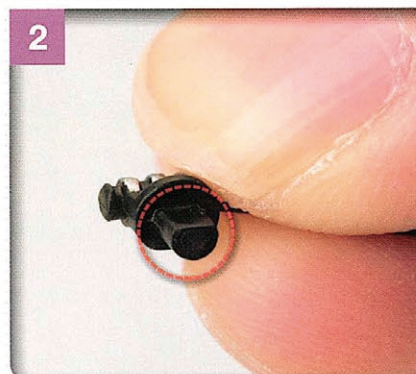
・カッターナイフ  
 ・ラジオペンチ  
 ・マスキングテープ



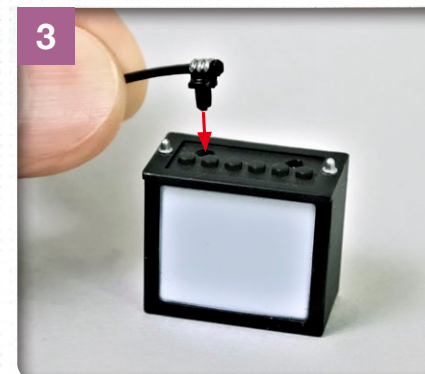
今号で作業する箇所



⑤バッテリーを用意し、上部に設けられた2カ所の穴(写真参照)の形状を確認しよう。丸の一部が“D字型”になっているはずだ。

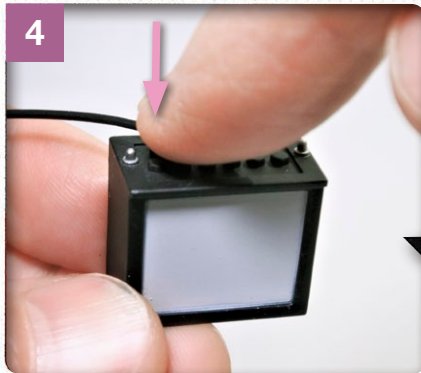


①バッテリーケーブル端子を用意し、写真で示した取り付けピン部分の形状を確認する。円柱の一部側面が平らになった形状(=「Dカット」と呼ぶ)になっている。



バッテリーケーブル端子を写真で示したバッテリー上部の取り付け穴にセットする。このとき、バッテリー端子の取り付けピンと穴の形状を合わせることに。





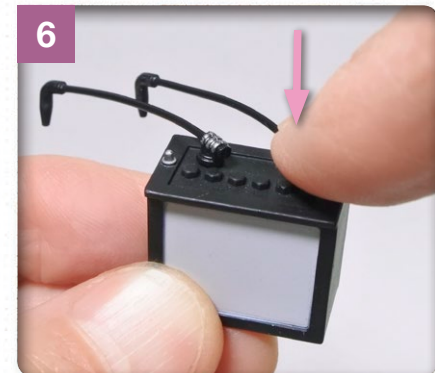
4  
バッテリーケーブル端子を真上から真っすぐに押し込んで差し込む。ケーブルと端子の継ぎ目部分に無理な力を加えないよう注意しよう。



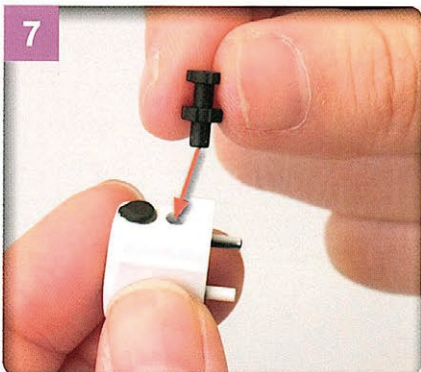
バッテリーケーブル端子の両端部分は、非常に細い接続ピンによって取り付けられている。そのため、両端の樹脂パーツ部分を引っ張ったり、無理な力を加えると、接続ピンが切れてしまうので、取り扱いには十分に注意しよう。



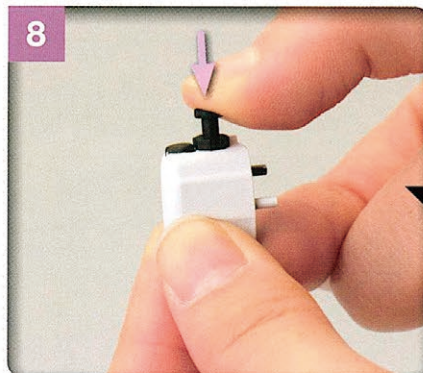
5  
もう1本のバッテリーケーブル端子を用意し、バッテリー上部の写真で示した穴にセットする。取り付けピンと穴の形状を合わせる。



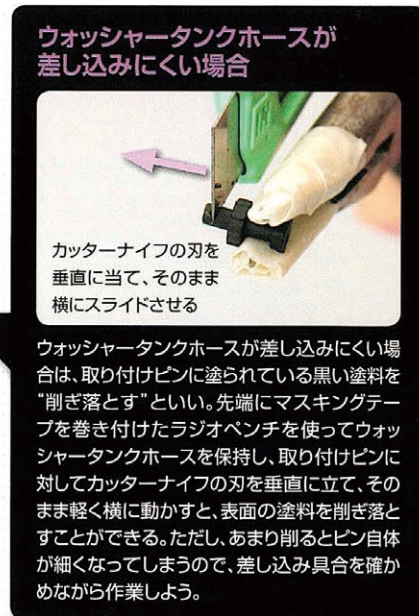
6  
バッテリーケーブル端子を穴に差し込んだら、真上から真っすぐに押し込んで差し込む。ケーブルと端子の継ぎ目部分に無理な力を加えないよう注意しよう。



7  
⑥ウォッシャータンクホースと⑦ウォッシャータンクを用意し、写真で示したウォッシャータンク上部の穴にウォッシャータンク下部の取り付けピンを差し込む。



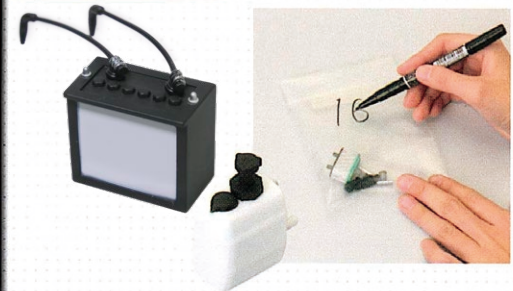
8  
ウォッシャータンクホースを真っすぐに押し込んで、ウォッシャータンクにはめ込む。



カッターナイフの刃を垂直に当て、そのまま横にスライドさせる

ウォッシャータンクホースが差し込みにくい場合は、取り付けピンに塗られている黒い塗料を“削ぎ落とす”といい。先端にマスキングテープを巻き付けたラジオペンチを使ってウォッシャータンクホースを保持し、取り付けピンに対してカッターナイフの刃を垂直に立て、そのまま軽く横に動かすと、表面の塗料を削ぎ落とすことができる。ただし、あまり削るとピン自体が細くなってしまうので、差し込み具合を確かめながら作業しよう。

### 今号の完成



これで今回の作業は完了だ。作業自体は簡単だが、小さなパーツが多いので、慎重に取り扱う必要がある。なお、使用しなかった②③④の各パーツは、号数を記入したビニール袋に入れて、組み立てたパーツとは別にして保管しよう。

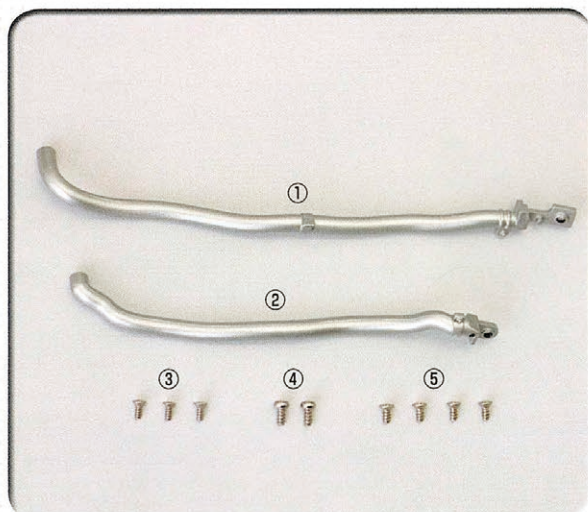


17号

# エキゾーストフロントパイプを取り付ける

今号では、12号で仮組みしたエキゾーストセンターパイプに、2本のエキゾーストフロントパイプを取り付ける。このパーツは、エンジン右側面に取り付けたマニホールドと、エキゾーストセンターパイプをつなぐもので、これによって2000GTの排気系が完成する。なお、仮留めしたマフラーが作業の妨げになる場合は取り外し、傷が付かないよう保管しておこう。

## 今号のパーツ



- ①エキゾーストフロントパイプA×1
- ②エキゾーストフロントパイプB×1
- ③ビス(Kタイプ)×3(※1本は予備)
- ④ビス(Fタイプ)×2(※1本は予備)
- ⑤ビス(Gタイプ)×4(※1本は予備)

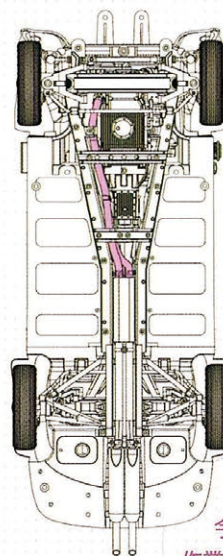
※④⑤は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

### 使用する道具

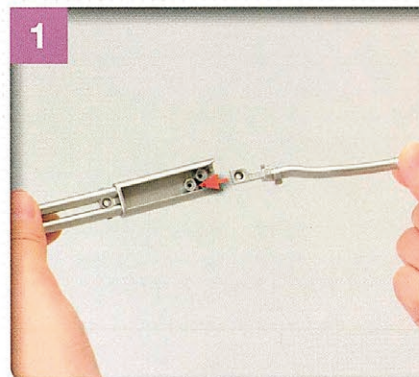
・プラスドライバー(1番)

### 用意するもの

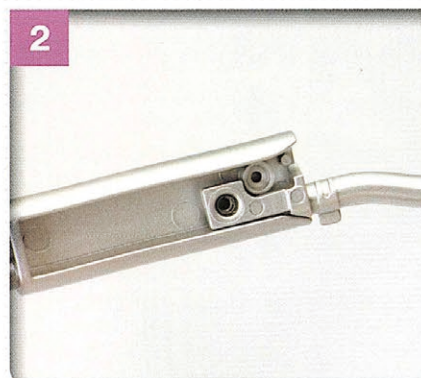
・エキゾーストセンターパイプ  
(12号で仮組みしたもの)



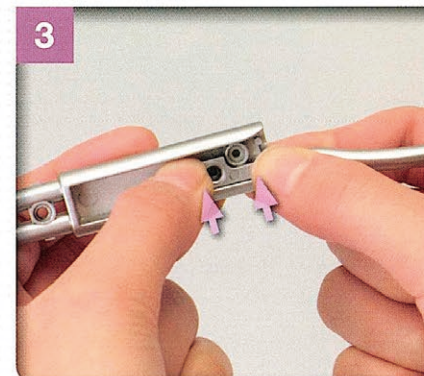
今号で作業する箇所



①エキゾーストフロントパイプAと、12号で仮組みしたエキゾーストセンターパイプを用意し、写真を参照してフロントパイプAをセンターパイプにセットする。

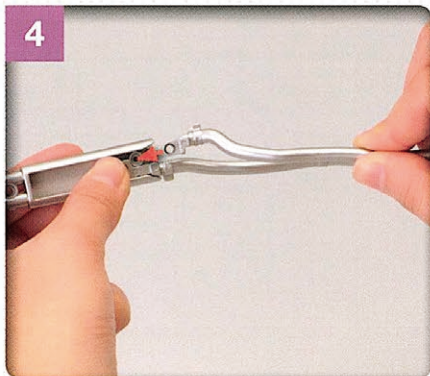


エキゾーストフロントパイプAの接合部を、エキゾーストセンターパイプの取り付け部分にはめ込む。

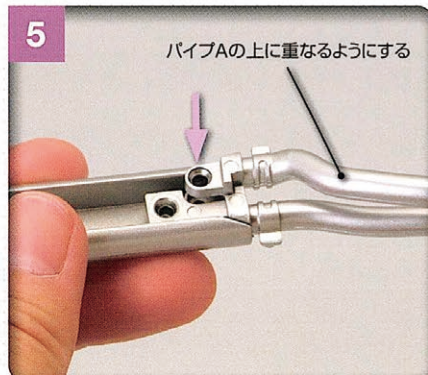


エキゾーストフロントパイプAの接合部を指先でしっかりと押し込み、エキゾーストセンターパイプに取り付ける。

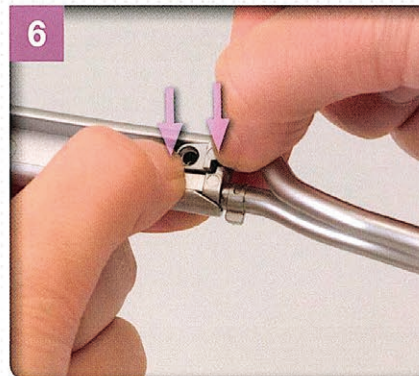




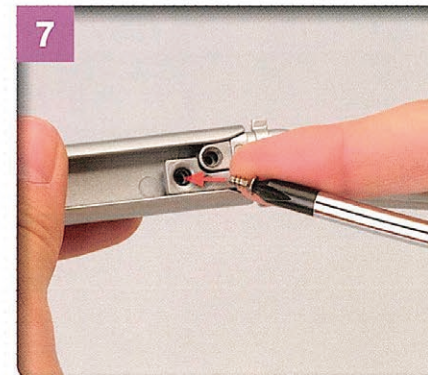
次に②エキゾーストフロントパイプBを用意し、③ではめ込んだエキゾーストフロントパイプAの上にセットする。



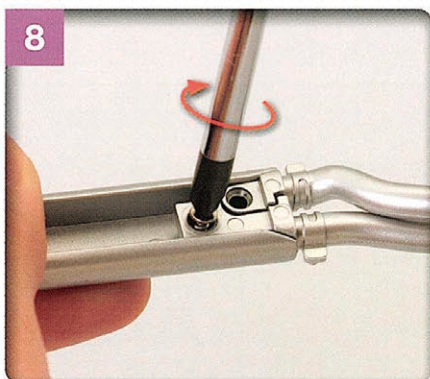
エキゾーストフロントパイプBの接合部が、エキゾーストセンターパイプの取り付け部分、さらにはエキゾーストフロントパイプAの接合部とかみ合うように、真上からはめ込む。



エキゾーストフロントパイプBの接合部を指先でしっかりと押し込み、エキゾーストセンターパイプに取り付ける。



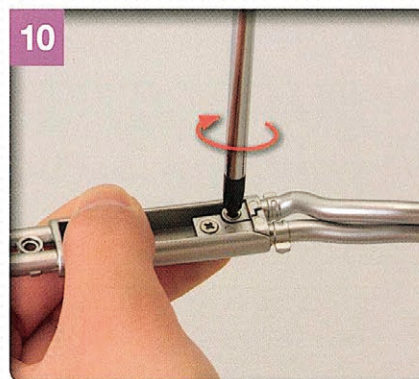
③ビス(Kタイプ)を用意し、1番のプラスドライバーを使って、写真で示したビス穴に対して真っすぐにセットする。



ドライバーを右にゆっくりと回してKタイプのビスをねじ込み、エキゾーストフロントパイプAをエキゾーストセンターパイプに固定する。無理にねじ込むとパーツを傷めてしまうので、力加減に注意しよう。



Kタイプのビスをもう1本用意し、同様に写真で示したビス穴に対して真っすぐにセットする。



ドライバーを右にゆっくりと回してKタイプのビスをねじ込み、エキゾーストフロントパイプBをエキゾーストセンターパイプに固定する。

### 今号の完成



これで今回の作業は完了だ。現在組み立て途中のエンジンブロックの右横に、このエキゾーストパイプを並べれば、実車の排気系のレイアウトや、完成時のモデルの大きさが分かるだろう。なお、仮留め状態となっている後端のマフラーは簡単に外れてしまうので、注意して扱おう。また、組み立てたパーツは細長いので、破損に注意して保管しよう。

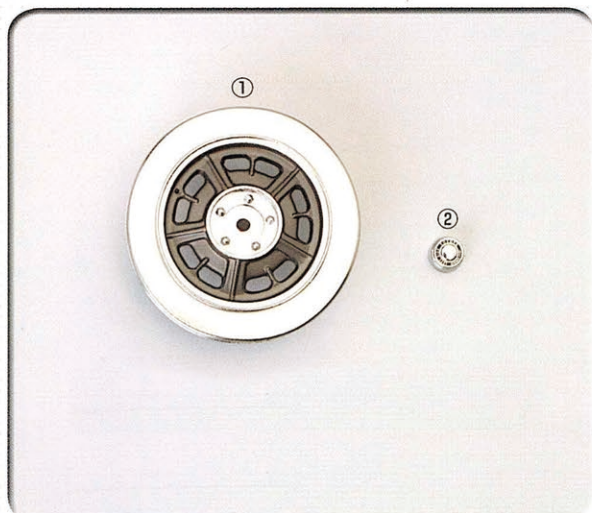


18号

# 左リアホイールを確認する

今号では左リアホイールと、それに取り付けるハブナットを提供する。ハブナットにはタイヤの回転方向が示されているので、モデルを組み立てるときに間違えないよう注意しよう。

## 今号のパーツ



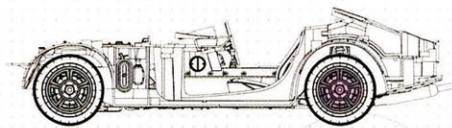
①左リアホイール×1  
②左リア用ハブナット×1

### 使用する道具

・特になし

### 用意するもの

・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)  
・油性ペン



今号のパーツ  
を組む箇所

1



①左リアホイールを用意し、パーツの状態を確認しよう。表面中央部の塗装ははげやすいので、硬いものでひっかいたりしないよう注意して扱おう。

2



次に②左リア用ハブナットを確認する。ハブナットの表面にはタイヤの回転方向を示す「ローテーションマーク」がプリントされているので、写真と照らし合わせて確かめよう。

3



パーツの確認を終えたら、保管用のビニール袋を用意し、ホイールとハブナットを入れ、傷が付かないよう大切に保管しよう。その際はビニール袋に油性ペンで号数を記入しておくといい。